同軸型 DBD プラズマアクチュエータを用いた噴流拡散および抑制の制御に関する研究 Study on Jet Diffusion and Suppression Control by the Coaxial Type DBD Plasma Actuator

井上和馬¹, 加藤諒也¹, 山根直人¹, ○山本一肇¹, 松森大記², 秋元雅翔³, 木村元昭³ Kazuma Inoue¹, Ryoya Kato¹, Naoto Yamane¹, *Kazutada Yamamoto¹ Hiroki Matsumori², Masato Akimoto³, Motoaki Kimura³

Abstract: In this study, we applied induced flow with coaxial type DBD plasma actuator to the jet and investigated the effect of the flow diffusion control by LDV. The jet was air. The peak-to-peak Voltage was 16 kV. The Reynolds number was set to 2000. As a result of the experiment, when plasma was applied, the main flow velocity distribution spread in the radial direction by the vortex. In addition, due to the influence of the induced flow, the flow velocity in the main flow direction in the vicinity of the center became slower than the vicinity of the nozzle wall surface.

1. 緒言

噴流はジェットエンジンや空調などの重要な工業製品の性能向上に関わる要素の一つであり^[1],その制御方法の一つにプラズマによって発生する誘起流を用いたものがある.本研究では誘起流を発生させる DBD-PA(Dielectric Barrier Discharge-Plasma Actuator)^[2]を使用して,主噴流に空気を用いて制御を行う.ここで,LDV(Laser Doppler Velocimeter)と高速度カメラを用いてDBD-PAによる噴流制御の影響を明らかにする.

2. 実験装置·方法

本実験で用いる同軸型 DBD-PA の断面図と寸法を表 した全体図を図 1(a), その主噴流と誘起流を図 1(b)に 示す.誘電体の材質はマシナブルセラミックスである. 内部電極、外部電極の材質はリン青銅とし、どちらも 厚さ 0.5mm の円筒状に加工した. 電極を誘電体にはめ 込み DBD-PA を構成した. ここでノズル出口内径 d=10mm である.実験装置の説明を次に示す.ファン クションジェネレータの波形を高電圧電源に入力し, ピーク電圧を 2000 倍に増幅して DBD-PA に印加する. 使用する電圧波形は正弦波とした. 噴出流体は空気と し、コンプレッサーから供給される空気の流量をフロ ーコントローラで調節する. そして, シーディングジ ェネレータに通してトレーサ粒子を混入し、ノズルか ら噴出させ、噴流の流速を LDV を用いて測定し、高速 度カメラを用いて 12000fps で可視化撮影した. 噴出さ せた空気はレイノルズ数 Re=2000 である.

ここで本実験で使うバースト波形を図 2 に示す.バ ースト周波数 *f_{burst}* はバースト波における電圧の on-off を含む周期 *b* の逆数であり,バースト比 *a/b* は 50% と した.この時印加する *f_{burst}* は自然発生周波数 *f_n* によっ



Figure 2. Burst-mode wave overview

て決定する. f_n とは, Re=2000において自由噴流での渦 が x/d=1.5 で発生する周波数のことである.実験は f_{burst} を $V_{pp}=16kV$ 一定のもと印加させた.また,ここで xは鉛直上向きを正とする.このとき高さ x/d を固定し てノズルの中心軸から外側までを 0.1 または 0.25mm 間 隔で測ることで,その高さにおける噴流の速度分布の データを得る.このデータを印加する電圧と周波数に ついて比較することで噴流の制御について考察する.

3. 実験結果および考察

バースト周波数について自然周波数と同じ周波数, すなわち fburst=1.0fn について考察する. x/d ごとの LDV で測定した噴流の流速分布を図 3, 4 に示す. グラフは 縦軸が主流方向平均流速 U, 横軸をノズル中心軸から の距離 y と半径 r との比としている. 図3 は自由噴流(以

1:日大理工・学部・機械, 2:日大理工・院(前)・機械, 3:日大理工・教員・機械

下 off とする),図4は電圧を印加した場合の噴流(以下 1.0f,とする)である. この2つの図の比較から分かる点 が2つある. 1つ目は自由せん断層外周より内側の速 度分布の形が異なる点である.offに比べて 1.0fn は中心 付近で減速し,壁面付近で増速した.壁面での増速は 誘起流がノズル壁面で作用するためで、中心付近での 減速は、流量が一定であるために壁面付近でUが速く なった分中心付近の U が減速するためである. 2つ目 は半径方向に U 分布が拡大する点である. 例として y/r=1.5 に注目すると x/d=2.0 以上では off に比べ 1.0fn において流速が速いことが分かる.この要因は図5の x/d=1.0 での半径方向平均流速 V 分布により分かる. V の値は正が半径方向,負が中心方向を向く流速である. 図 5 からノズル壁面(y/r=1.0)より内側で 1.0fn では, V は正の大きな値をとっている. ここから, 主流中心の 流れが V の増加で噴流の外側へ拡大するために, off に比べ Uの分布が x/d=2.0 以上で半径方向に拡大した. ここでノズル壁面内側でVが増加する要因について図 6,7より述べる.図6では x/d=1.0 での主流方向と半 径方向の根平均二乗速度分布を表し,図 7 は噴流の xy 断面の可視化画像で、(a)は off、(b)は 1.0fn である. 図 6 では壁面より内側(y/r=0.5)で大きな乱れが発生するが, これは図 7(b)より壁面より内側まで作用する大きな渦 の影響を表していると考えられる.この渦により,壁 面内側でVが増加したと考えた.

4. 結論

同軸型 DBD プラズマアクチュエータについて噴流 の速度分布の測定により以下のように結論を導いた.

- (1) 誘起流の影響で主流流速分布についてノズル壁面 付近で流速が速くなり、中心で流速が遅くなる.
- (2) DBD-PA の駆動によって大きな渦が発生し半径方 向の流速が増速することで、自由噴流に比べ、噴 流を半径方向へ拡散させることができる.

5. 謝辞

本研究は JSPS 科研費 25420132, 16K06131[基盤研究 (C)]の助成を受けたものであり、ここに謝辞を表する.

6. 参考文献

[1] 社河内敏彦:「噴流工学 基礎と応用」,森北出版, pp.i, pp.22, 2004.

[2] 深潟康二,山田俊輔,石川仁:「プラズマアクチュ エータの基礎と研究動向」,ながれ,Vol.29, No.4, pp.243-250, 2010.



Figure 3. Velocity of main flow direction-distance from the center/radius of the nozzle (off, *Re*=2000)



Figure 4. Velocity of main flow direction-distance from the center/radius of the nozzle (burst, $1.0f_n$, *Re*=2000)



Figure 5. Velocity of radial direction-distance from the center/radius of the nozzle (burst, x/d=1.0, Re=2000)



Figure 6. root-mean-square Velocity of main flow and radial direction-distance from the center/radius of the nozzle (burst, x/d=1.0, Re=2000)



Figure 7. Visualization of flow(*Re*=2000, section of *xy*)